



営農NEWS



秋野菜を加害するオオタバコガの被害発生に注意しましょう

オオタバコガは、レタスやキャベツなど葉菜類、トマトやナスなど果菜類、ダイズやインゲンなど豆類、バラやキクなど花き類等の多くの作物を加害し、多発生すると著しく商品価値を低下させ、多大な減収を招いてしまいます。

本年の発生は、病害虫防除所ホームページのフェロモントラップデータ（8月21日更新）によりますと、「直近1ヵ月間（7月16日～8月15日）のオオタバコガの総誘殺数は、調査3地点（土浦市、龍ヶ崎市、筑西市）でいずれも平年よりやや多くなっています。土浦市や龍ヶ崎市では8月第2半旬に誘殺ピークが認められ、この世代の誘殺数が多発生年より多くなっていますので、9月にピークとなる次世代の発生に注意して下さい」と呼びかけています。

例年8～9月になりますと、各種作物における被害が目立ってきますし、9～10月が被害のピークとなりますので、常に栽培作物を注意深く観察し、幼虫による被害が確認されたら早期に防除を実施してください。

<防除のポイント>

- 1 オオタバコガは、幼虫の齢期が進むほど薬剤による殺虫効果の低下傾向がみられますので、早期発見に努め、若齢～中齢期のうちに防除を行ってください。
- 2 幼虫は植物組織内に潜る性質があります。トマトやナスなどは幼果や果実、新梢または茎内に、レタスなど結球野菜では結球内部に食入すると防除が困難になるため、発生初期や結球始期の防除を徹底してください。
- 3 レタスでは、移植後の被害発生を未然に防ぐために、移植前に薬液の育苗トレイ灌注を行っておくと有効です。
- 4 施設栽培では、開口部に防虫ネットを展張して、成虫の侵入防止に努めましょう。
- 5 薬剤散布の際は、葉裏や株元にもよくかかるよう、十分量の薬液で丁寧に行ってください。
- 6 薬剤抵抗性の発達を抑制するため、系統の異なる薬剤をローテーションで散布してください。

表1 各作物におけるオオタバコガの主な防除薬剤（平成27年8月24日現在）

薬 剤 名	レタス	非結球レタス	トマト	ミニトマト	ナス	ピーマン	キャベツ	ハクサイ	イチゴ
アフーム乳剤（マクロライド系）	○	○	○	○	○	○			○
アニキ乳剤（マクロライド系）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ブレバソフフロアブル5 （ジアミド系）	○	○	○	○	○	○	○		
フェニックス顆粒水和剤 （ジアミド系）	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ブレオフロアブル（－）	○	○※1	○	○	○	○※3	○	○	○
トルネードエースDF（－）	○	○	○		○	○			○
コテツフロアブル（－）	○	○	○	○	○	○	○		
ディアナSC（スピノシン系）	○	○	○	○	○	○	○	○	
スピノエース顆粒水和剤 （スピノシン系）	○	○	○	○	○	○			
ハクサップ水和剤（ピレスロイド系）	○	○※1			○		○	○	
ラービフロアブル（カーバメイト系）	○	○							
ファルコンフロアブル（IGR）	○	○	○		○	○	○		○
カスケード乳剤（IGR）	○	○	○	○		○			
マッチ乳剤（IGR）	○	○	○	○	○	○			
エスマルクDF（BT）	○※2	○※2	○※2	○※2	○※2	○※2	○※2	○※2	○※2
ゼンターリ顆粒水和剤（BT）	○※2	○※2	○※2	○※2	○※2	○※2	○※2		○※2

注) 1 薬剤によっては、処理方法の違いにより、対象作物や病害虫の異なる場合がありますので、農薬登録の内容等を事前に十分確認願います。

2 表中の※1は対象作物がリーフレタスで、※2は野菜類で、また、※3は対象病害虫がタバコガ類で農薬登録されています。

3 ジアミド系薬剤では、コナガに対する防除効果の低下する場合が確認されています。コナガを対象とする防除は、他の有効薬剤で対応してください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040